

遍照山

第63号

平成31年
3月2日発行

春の季節が待ち遠し

春を待っているのは、一日千秋の思いです、なぜって言うのは、寒さで凍えていると、肩はこり、運動不足となり、身体に悪いです。これでは怠け心を起こし、自分が向上させる事が在りません。ほんと悲しいです。

もうすぐ彼岸がやってきます。「暑さ寒さは彼岸まで」とことわざがあるように、身体を動かす、健康的な暮らしが待っています。

お墓参りは、これから身体を動かすにあたって、怪我をせずに、安全を守ってくださいと誓う行いではないかとかんがえます。

お墓の前で、「私たちが生んでくれてありがとう」「いい人生をおくっていますよ。」と心から念じてください。



法華千部会の厳修

四月五日(金)、六日(土)、七日(日)3日間総本山西教寺於いて勤まります。

とくに、法華経八巻を三日間で三十人の僧侶が声を同じくして、唱えます。それはみごとです。一度お参りに来て下さい。

六日には、子どもの安全、学業成就祈願(智恵袋の授けます)と、昨年中に亡くなられた方の供養をします。

お練り供養、佛教婦人会の音楽法要、雅楽の演奏、世界平和祈願、地藏菩薩の供養、引接寺山主の法話があります。三日間の食事は無料です。

毎年、供養米(五百円)、霊名札(1枚三百円×二

枚)で、各家の身の安全を祈り、穏やか日々と世界平和と人々の幸福を祈禱します。

お墓は、死者の冥福と生者の

幸福を祈る場所

お墓は、亡くなった人の遺骨を埋葬して供養する場所です。これ自体は人々には理解されています。

お墓参りする私たち自身の幸福をも祈る場所ではないかということです。お墓参りをして、石塔をきれいに掃除して、手を合わせると、どこか晴れやかな気持ちにならないでしょうか。

先祖様の冥福を祈るということは、自分たちの幸せを祈ることもあります。いつもご先祖様と一緒にいる、という日本人の死生観が、いまのお墓参りの文化を生んでいるのです。

大切な人の存在がこの世から亡くなったとしても、その人とのつながりまでもが消えてなくなりません。記憶や、思い出は、残された人々の心の中に刻み込み、その人となりが続けるのです。

お墓参りに行くと、その中に眠る人に語りかけていくのです。人間は、亡き人を内に抱えて生きていくのだと思います。

長者窮子(ちようじやぐうじ)

法華経 信解品から抜粋

ある長者の子供が幼い時に家出した。彼は五〇年の間、他国を流浪して困窮したあげく、父の邸宅とは知らず門前にたどりついた。父親は偶然見たその窮子が息子だと確信し、召使いに連れてくるよう命じたが、何も知らない息子は捕まえられるのが嫌で逃げてしまう。長者は一計を案じ、召使いにみずぼらしい格好をさせて「いい仕事があるから一緒にやらないか」と誘うよう命じ、ついに邸宅に連れ戻した。そしてその窮子を掃除夫として雇い、最初に一番汚い仕事をさせた。長者自身も立派な着物を脱いで身なりを低くして窮子と共に汗を流した。窮子である息子も熱心に仕事をこなした。やがて二〇年経ち、臨終を前にした長者は、窮子に財産の管理を任せ、実の子であることを明かした。この物語の長者とは仏であり、窮子とは衆生である。仏の様々な化導によって、一切の衆生はみな仏の子であることを自覚し、成仏することができるのです。



クイズ

「彼岸」という言葉があります。

では「彼岸」には、反対語があります。なんとという言葉ですか

ヒント

私たちが生きる世界です。

※ハガキに答えを書いて応募してください。粗品を差し上げます。

宛先

〒520-1217

高島市安曇川町田中3459番地

玉泉寺宛て

だんごおき

とき 三月十四日(木) 午後二時

お釈迦様の姿を偲んで、生きるための教えを聞き、息災安穩を祈ります。お守りのだんごを授けます。どうぞお参りください。

彼岸会

とき 三月二十日(水) 午後二時

先祖様の名をよみあげて、ご詠歌とふじを唱えて、人々の安寧を祈ります。どうぞお参りください。

法話会

ご希望の方には、本堂を開けてご連絡してください。「玉泉寺住職日記」のブログに毎日更新しています。ご覧ください。

びんずる会の活動に参加しませんか

写経、奉仕、座禅をして、心の修養をします。皆様のご参加をお待ちします。参加してみようと思われ方は、「一報下さい」。

発行者 高島市安曇川町田中三四五九

天台眞盛宗玉泉寺 木村 哲基

電話 〇九〇-三七〇八-七二〇六

FAX (〇七七)五〇二-二二七九

Eメール svka37375@eto.eonet.ne.jp

新Eメール info@gyokusenji.com

ホームページ「滋賀高島石仏の玉泉寺」と「玉泉寺住職日記」をらん下ろす。